

# 淀川区 生活困窮者支援システム

(※)

区の各窓口、民生委員などからの『気になる事案』や相談支援機関からの『複合的な課題を抱えた事案』の相談に対し、区的生活困窮者自立支援担当が調整役を担い、適切な制度へのつなぎや、関係者間の連携構築に向けた取り組みを行う仕組みです。



- ・関係機関同士で情報共有をしたいけど、どうしたら良いかわからない...
- ・課題が複数あってうちの機関だけでは支援できない...
- ・世帯全体で包括的に支援をしないと課題解決が見込めない...

そんなときは

淀川区役所保健福祉課 3階32番窓口

「生活困窮者自立支援」

「総合的な相談支援体制の充実事業」

担当 北出・山本・近藤

まずはご相談を！

☎ 06 - 6308 - 9857

✉ [tl0006@city.osaka.lg.jp](mailto:tl0006@city.osaka.lg.jp)

※生活困窮者：就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性その他の事情により、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者のこと。

# 淀川区生活困窮者支援システム活用事例

このような事例で連携が困難な場合はご相談ください！

## 事例① それぞれが課題を抱えた三世代同居の世帯

- ・男性（70代）はほぼ寝たきりの状態だが、支援を拒否しており娘が介護を行っている状況
- ・娘は子育てをしながら男性の介護を1人で担っており、心身ともに不調をきたしている
- ・男性や娘の影響で孫が不登校になり、娘が児童分野の相談機関へ相談に来る

➡ 孫の不登校をサポートする為には、娘や男性の支援が必要不可欠では・・・？

## 事例② 支援者に不信感を抱くアルコール依存症の高齢女性

- ・1人暮らしの女性（80代）は、度々お酒を飲んで近所とトラブルになっている
- ・介護保険のサービスを利用はしているものの、お酒が原因で支援者とも折り合いが合わず何度も支援者が入れ替わっている

➡ アルコール依存症の治療が必要なのではないだろうか？  
依存症の支援を行う相談機関と情報共有しながら連携を図りたい・・・

## 事例③ 認知症の母と支援拒否をする引きこもりの息子

- ・女性（80代）の妹が高齢者福祉分野の相談機関に女性のことについて相談に来るが「（女性の）息子が引きこもりで・・・」と話がある
- ・認知症の女性だけが息子を世話している様子があるが、妹と女性・息子とは関係が悪く口出しができない。

➡ 高齢者対象の支援者なので息子は関係ないけど気になる・・・  
どこに息子のことは相談すれば良いのだろうか？

## 事例④ 利用しているサービスの支援方針が異なり混乱する家族

- ・男性（50代）は母の介護負担が起因で精神科に通院、母親は要介護状態で自宅で介護保険サービスを利用、娘は発達障がいがあり就労支援を受けながら母親の介護を行っている
- ・男性の主治医は「環境を変えるべき」、母親のケアマネジャーは「現状維持」、娘の支援機関は「娘の1人暮らしを支援し自立を促す」と支援方針が異なっていた
- ・それぞれの支援者が支援方針に向けて動いており、混乱した娘が就労支援の機関に相談、区の障がい担当に状況報告があった

➡ 関係機関が集まって話し合う場の開催が必要だけど、どこが調整すれば？